



◆当面の管理について

1. 下草刈りを行う。ただし土が見えない程度にする。刈り過ぎ注意。
2. シャインマスカットを中心に「縮果症」の発生が目立つ。収穫荷作り時は注意したい。
3. 盆前後から8月下旬まで曇天雨が続く場合は、シャインマスカットの糖度上昇が停滞し、熟期が遅れるため園の明るさを保つようにこまめに摘心を行う。
4. 2番なりは病害虫の発生源、着果負担となるのでもう1度見回り必ず落とす。
べと病に感染している場合は園外に持ち出す。

◆ぶどう栽培日誌の提出について

ぶどう出荷予定者の方は下記期日までに今回配布した栽培日誌を提出ください。

1. 提出期限：8月19日（火）まで
※種なし巨峰等、収穫が早まるものは上記日より早く提出していただきます。
各支部便りをご覧ください。
2. 提出方法：地区役員さんまで提出して下さい。
※役員さんは8月20日（水）までに各流通センター・共選所まで提出してください。
3. 留意事項
 - ①散布したところまで記入して下さい（予定は入れないでください）
 - ②栽培日誌を確認し、法的に問題がある場合は、選果及び出荷はできません。
 - ③提出されず出荷された場合は、安全性が確認できるまで選果できません。
※記帳内容に不備が無いようお願い致します。

◆第13回薬剤散布について

1. 散布時期：前回散布14日以内 散布日 月 日
2. 調合量：水1000当り ※混用順に記載

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ICボルドー66D	2kg	べと病・さび病・黒とう病（褐斑病）	—
固着性展着剤K・Kステッカー （必ず最後に調合する）	33ml	—	—

3. 散布量：10a当り ⇒SS・動噴＝3500
4. 留意事項
 - ①散布間隔を空けずに、icボルドー66D 50倍又は、4-4式ボルドー液の散布を定期的に棚上まで十分散布する。
 - ②icボルドー66Dに代えて4-4式ボルドー液（生石灰400g、④硫酸銅400g）を使用しても良い。
 - ③固着性展着剤K・Kステッカー3,000倍に代えて固着性展着剤アビオンE1,500倍（水1000当り66ml）を使用しても良い。使用する場合は最初に調合する。
 - ④ボルドー液は他の作物（果樹・野菜・花等）にかからないよう注意する。

◆今後の病害虫対策について

1. 病害について

「べと病」「晩腐病」「さび病」の増加が心配される。発生がみられ、前回散布より2週間以上期間が空く場合は、下記の対策を実施する。

 - ①「べと病・さび病」
遅伸びしている新梢管理の徹底を行い、もう1度icボルドー66D50倍（水1000当り2kg）又は、4-4式ボルドー液（生石灰400g、硫酸銅400g）又は、ムッシュボルドーDF500倍（水1000当り200g）の特別散布を行う。

展着剤については、アビオンE 1,000倍（水1000当り100ml、最初に調合）又は、K・Kステッカー3,000倍（水1000当り33ml、最後に調合）を使用する。

②「晩腐病」

発病している粒は、取り除き土中へ埋めるなど適切に処分する。袋が黒く汚れている物は中を確認。

2. 虫害

「コウモリガ」「クビアカスカシバ」などの食害が見られる。

枝を食害して樹勢を弱らせるなど症状は似ているが、食害した部分を覆うほどの大量の木屑と虫糞を出すのは「コウモリガ」になる。

散布薬剤はスプレー式の殺虫剤「ロビンフット」（収穫前日まで・5回以内）を食害部に散布する。

根元の周りは除草を行い、風通しを良くさせる。

見つけ次第、捕殺または針金等で刺殺する。

◆ナガノパープル裂果対策について・・・前回の情報を参照

◆赤系品種着色管理について

1. 着色始め（クイーンルージュ®：8月初旬、クイーンニーナ：8月中旬）から2～3週間の間の日照が多いことが着色に望ましい。

2. 着色しやすい条件

①強樹勢、大房、着房過多は、着色が悪い。着色不良果粒の混入の他に裂果発生が多くなる傾向。

②着色始め約2～3週間後の時点で、ある程度の糖度が確保されている。

糖度が高いと着色が良く、低いと着色が薄いという試験結果がある。

③着色には日照が大きく影響する。

3. 大房になると着色不良果粒の混入が増えるほか、裂果も発生しやすくなるので、大房にならないようにする。また、棚面をやや明るめに保つ。日照が少ない年に果皮色が淡くなる傾向がある。

4. 着色向上管理方法

①摘葉

着色始め1～2週間後に果房上部の房に当る葉

（主に房の反対側の葉）1～2枚を摘葉する。

日焼けが心配されるので高温時の摘葉は避ける。

着色・糖度は上昇するが、やや粒肥大が劣る。

糖の蓄積が不十分な場合は効果が劣る。

②反射マルチのタイベックシートを使用する。シルバーマルチは日焼けを助長するため使用しない。

③袋かけ替え

・8月下旬頃に乳白色果実袋を透明袋に替える。

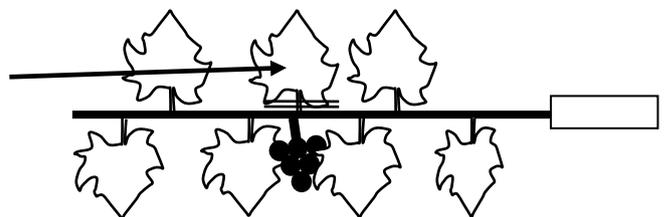
・直射日光が当たりやすい果房では、袋内の温度が上がりやすいため日焼けしやすい。

・直射日光が当たりにくい果房を利用する。

④笠かけ替え

・8月下旬頃に果実袋を除袋して透明笠にかけ替える。

・この場合、鳥獣害対策を行い、除袋後に薬剤散布は行わない。



◆熟期促進や着色向上を目的とした葉面散布剤の使用について

1. 時期：8上中旬～中下旬頃

2. 以前に配布されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方〈ぶどう〉」を参考に葉面散布肥料を有効に活用する。アミノメリット黄・メリット赤、色一番E、モーニングシャイン等を利用する。

※樹勢の安定した（弱い）ものにメリット赤（燐酸・加里）を早くから散布すると、果粒内の酸が抜けて食味は良くなるが、黒系品種の着色は黒紫色に上らず赤熟れになり易いので注意する。

◆種なしぶどう強樹勢樹の遅伸び新梢摘心等管理について

種なしぶどうで2回目の摘心後も伸長している新梢は再度摘心し、玉肥大・着色促進をはかる。

2回目の摘心を実施しておらず暗くなっている園は一気に強い摘心は行わず、果房全体に色がまわってから順次実施する。

◆種あり巨峰管理について

1. 摘心をしていない園(樹)については、8月中旬にかけて30～35葉を目安に摘心するか先端10cm前後で摘心し、枝の充実をはかる。尚、副梢も基部1～2葉残して切除する。
2. チッソ肥料をうまく効かせて、穂軸の青さを9月いっぱい保ちたい。
 - ①8月中旬までにノルチッソ1袋/10a当を施用する。
3. 樹勢が弱い場合は葉面散布も合わせて行う。
 - ①果房の穂軸が黄変したものは尿素400～500倍液に展着剤を加用し散布する。
 - ②やや黄変した園はアミノメリット青500倍を散布する。
 - ③いずれも、有袋期間中に2回は散布したい(葉面散布1回の有効期間7～10日)
 - ④吸収効率のよい夕方散布とし高温時は避ける。
 - ⑤ボルドーと混用は可能だが、高温時は葉焼けを生じるので注意する。

◆短梢仕立て樹の更新について《重要》

導入当初より短梢仕立ての寿命は、15年程度と言われている。本格的に導入され、17～18年が経過し、樹齢が経過してきた樹では、「果皮の硬さ」「食味不良」「房型不良」「花穂の欠損」「突然枯死」等の影響がでている。このため、「良品質安定生産」を継続するため、「積極的な樹の更新」をお願い致します。

更新するにあたって、次の点を考慮し、品種構成の見直しを図ってください。

- 当JAのみならず、全国的にシャインマスカットとの占有率がかなり高まっている。(JA内70%程度)
 - 栽培管理が容易なシャインマスカットは増加しており黒系が少ない品種構成となっている。
 - 今後、シャインマスカットの単価を維持していくためには、市場消費者から求められる、他産地との差別化できる品質。また、黒系品種の増加が必要になる。
 - シャインマスカット偏重になると、管理作業・収穫出荷の作業配分が困難となり、品質低下や面積拡大による、農業所得増加にも課題となる。
 - 黒系品種は、新たな品種が明確になっていない状況であるため、「ナガノパープル」を中心に、「巨峰」「ピオーネ」を再検討していく必要がある。
 - ◎樹更新の際は、上記の点を考慮し、ぶどうのさらなる生産振興により、農業所得増加を目指す。
更新に係わる相談は、果樹技術員まで積極的に相談ください。
- ※なお、更新の際は、伐採後の植え替えではなく、既存樹を生かしながらの「追い出し剪定」での更新を行い、著しい収量低下をしないよう、取り組みする。

◆第58回うまいくだものコンクール(ぶどう「シャインマスカット」部門)開催について

下記内容により、開催されます。出品希望者は、果樹技術員まで申し出て下さい。

1. 開催日 : 9月18日(木)
2. 搬入時間 : 10:00～12:00
3. 搬入場所 : 長野県農業試験場 農業技術館(須坂市小河原492)
4. 搬入方法 : 申込者による、直接持込
5. 出品資材 : 申込者に後日配布。一部自身で用意。
6. 申込方法 : 8月14日(木)以降に、果樹技術員より「出品申込書」「出品に係わる留意事項」を受け取り、「出品申込書」に必要事項を記入の上、8月29日(金)までに、提出下さい。

